

2016年10月
1108号

万葉

Manyō

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

未来に平和と連帯の輪という宝物を残そう ～第22回アジア太平洋国際女性連盟に参加～

アジア太平洋国際女性連盟 (Federation of Asia-Pacific Women's Association – FAWA) が9月29日から10月1日にかけてシンガポールにて開催されました。第22回のテーマは「The future of humanity: Leaving a legacy」、直訳すると「人類の未来：遺産の継承」——1959年の設立以来多種多様なアジアの女性が交流を続けてきた FAWA、それにより培われた連帯そのものが未来に受け継ぐべき宝であるという決意を感じました。

FAWA は、故相馬雪香一冊の会永久最高顧問が1950年にスイスで開催された国際会議に出席した折に、フィリピンの上院議員ペクソン女史と出会い、アジア太平洋の女性の相互理解と連帯を深める必要性を強く認識されたことが始まりです。アジアの女性の連帯を通じ、アジアひいては世界の平和の実現、女性の福祉向上を目的としています。

一冊の会は、2007年に東京で開催された第18回会議を手伝い、2009年の第19回会議から正式参加をしています。今回の第22回大会には一冊の会20名、オブザーバー参加でINPS JAPANの浅霧理事長、同じくオブザーバー参加でIEO国際交流団体の理事長佐藤容代氏を含む会員8名、総勢29名が日本から参加致しました。

【シンガポール国立図書館見学】教育は無形の財産

会場となったホテルから歩いてすぐのところにシンガポール国立図書館があり、シンガポール FAWA 事務局が見学ツアーを組んでくださいました。一冊の会は「教育は無形の財産」と考え、後に国立国会図書館副館長に就任された酒井悌先生と共に、識字・人権を中心に据え活動して参りました。当時子ども図書館が設立されるまで子どもの入館が禁じられていた国立国会図書館に、未来を担う子どもの入館ができるよう大槻会長が酒井先生へ懇願し、酒井先生のご好意により承認して頂き、その第一回の国立国会図書館に入館した子どもの一人が大槻由美さんです。今回の FAWA では大槻会長・小山副会長の通訳として大活躍されました。

シンガポールの国立図書館では子どもも利用出来、毎日多くの利用者が訪れているとのこと。人文社会科学、科学技術、ビジネス、芸術等豊富な蔵書を誇るだけでなく、DVD や電子書籍・特別展示なども楽しめる図書館となっております。英語だけでなく、中国語やインドの言語等東南アジア地域の歴史、文学に触れることも出来ます。本を通じて国・世界の歴史に触れる、歴史を学び、習い、未来へと活かしていく、将来を担う人材育成を大切にしていることに感銘を受けました。(村岡)



【オープニングセレモニー&ディナー】各国交流の始まり

開演前に、会場の入り口に各国のお菓子を置いて自由に食べながら交流を深める時間があり、被災地東北のお菓子を新井先輩が中心になり用意してくださり各国の皆さまに振る舞いました。同時に「心の絆大作戦 ハンカチ支援プロジェクト」の説明及び緑のハンカチに応援メッセージを書いて頂くようお願いし、最終日までの間に 71 人の方に書いて頂くことができました。

オープニングセレモニーは、各国のフラッグの入場で始まりました。会場の皆が注目する中、日本の国旗と共に、大槻会長が登場。艶やかな着物姿で堂々入場。日本代表の誇らしさを感じました。大槻会長と小山副会長の着付けは、瀧川さんと椎名が担当させて頂きました。FAWA 副会長である大槻会長と、ボードメンバーを務める小山副会長、お二人の着付けに身の引き締まる思いでした。また「若手はお振袖！」といつも華を添える役割を下さる大槻会長のお言葉により、お互いに着付けしあい、若手 4 人もお振袖で臨み、各国代表の皆さまに「ビューティフル！」と行って頂きました。

美しい民族衣装の各国の代表と共に写真を撮ったり、ホスト国シンガポールの歌や踊りでおもてなしを受けました。その後に頂いたディナーは、それぞれが初日の役割を果たした安堵感もあり、とても美味しく頂きました。(椎名)



【分科会 1：経済界での女性 - 介入と進出】副議長を務めて

3つの分科会にメンバーが其々分かれ、2時間にも渡る時間を各国の参加者が対話し、今後の活動に何が活かせるか、FAWA のネットワークを利用してどうやって活動をしていくか等の話し合いがなされました。

日本から林さん、塩見さん、北川さん、田村さん、山内さんが参加。そして、先輩方のご好意で若手の村岡が副議長という大役を務めさせて頂きました。議長はフィリピンの団体の方でしたが、FAWA 初参加者のことで最初は戸惑いました。しかし、故相馬雪香先生がペクソン女史と対話をしたことがきっかけとなりフィリピンで発足した FAWA、フィリピンの議長と組ませて頂いたという運命が自分の「使命」なのだ認識をし、精一杯取り組みました。マイクや機材の不調等思ってもいなかったハプニングが起きましたがその都度議長と話し合い、臨機応変に対応することが出来ました。

参加ではなく、参画、まさしく今回の FAWA は私達若手にとって共に学び、考え、自分の意見を話し、何とんでも海外の FAWA メンバーと「対話」をすることで、女性・男性共に輝く未来を創設する為の「歴史」として未来へと残る「遺産」を築く大事なワンステップを確実に刻むことが出来ました。世界のひのき舞台は広い、素晴らしい体験を積むチャンスを頂いたことに心から感謝します。(村岡)

【分科会 2：次世代への持続可能の母なる地球】発言をして

大先輩の三坂さん(一冊の会 FAWA 事務局長)、新井さん、横山さんと瀧川が参加。地球規模の壮大なテーマを地球市民として話し合いました。食品の食べ残しを減らそう、資源の「リユース(再使用)、リデュース(削減)、リサイクル(再利用)」が大切、という共通の話題でのディスカッションは、各国それぞれの思いを積極的に発表されていました。また、現代社会のネットやスマホに夢中になる子どもや親についての議論を投げかけた三坂さんの発言に多くの方が頷かれ、どこの国も事情は同じと感じました。その一方で、水事情は国や地域によって異なります。水の流れないトイレがまだ当たり前の地域がある国もあれば、日本はゲリラ豪雨や台風上陸で水害が多発しています。その国その地域で抱える問題が沢山あるとわかりました。

私は用意した原稿を発表。英語力はまだまだ発展途上と感じましたが、通訳兼務の三坂さんのおかげでなんとか発言を終えることができました。次回は英語力をもう少し磨きたいと思います。

どの話題もみなさん熱く議論を交わされていました。次世代へ持続可能な地球を残すことに反対する人はいません。ちょっとの工夫や気遣いを実践し、持続する事こそが、次世代の生きる「母なる地球」を守る事に繋がっていると感じた分科会でした。(瀧川)

【分科会3：ジェンダー平等均衡の達成】 発言をして

大槻会長、小山副会長、大槻由美さん、岸田さん、宇野さん、丸山さん、赤田が参加。最初に各国の意見を聞かれたため、慌てて丸山さんに助けて頂き用意しておいた英文を手し、サブテーマの「女性と男性間の真のパートナーシップ」について、社会そのものを変えていく必要があると発表致しました。そこから各国の参加者により実際に自身のパートナーの支援を受けられているか、自身の子供にどのように教えているか、和気あいあいとした雰囲気意見交換がなされました。そんな中、小山副会長が1つのモデルとして大槻会長と一冊の会について発表され、大槻由美さんが通訳されました。子供にどのような教育をするか話していたメンバーは、通訳をしている立派な若者が会長のお孫さんだと聞いてびっくり。由美さんも通訳をしつつ少し恥ずかしそうでしたが、家庭での教育と社会への啓発・変革の活動を両輪で進めてきた大槻会長についてのお話しを、しっかり通訳されました。

最後に私から、一冊の会は男性メンバーの賛同も得て、今回も男性の参加者がいることを発表し、男性と共に差別のない社会を作っていく必要があると訴えました。各国事情は異なりますが、単に学術的な話をするのとは違い、まずお互いを理解しあう FAWA ならではの良い面を感じられたワークショップでした。(赤田)



【メモリアルセレモニー】園田天光光先生、続節子先生の功績を称えて FAWA では毎回、FAWA に携わり尽力された方々の中で、前回開催時からの2年間に逝去された方を悼み、追悼式典を行っております。今回、FAWA はもちろんのこと、長年女性の権利向上獲得のために尽力され逝去された、園田天光光先生、続節子先生のお二方が顕彰されました。灯を蝋燭に燈す役割を、園田先生が理事を勤められた青山学院大学の卒業生でもある山内が、続先生の蝋燭を燈した大槻会長と共に勤めました。セレモニーではお二方の功績が述べられ、厳粛な雰囲気の中進行しました。ともすれば賑やかな FAWA ですが、静かに一人ひとりが黙祷の中でその偉大な功績を讃えました。(山内)

【カントリーレポート】各国からの報告

参加各国がこの2年間での各国の各種問題に対する取り組みを紹介する、カントリーレポート。日本については、三坂さんが流暢な英語と工夫した映像で発表しました。読み聞かせから始まった一冊の会が、教育の重要性に気付き、世界74カ国への支援をしている歴史についてや、大規模災害への復興支援、相馬雪香先生と FAWA、日本との繋がりについて等を説明し、今回の FAWA 各ワークショップのテーマに沿って、現在の日本女性の企業や政治への進出、男女比率の問題、被災地支援についてお話しされました。短時間の中で、一冊の会が取り組む膨大な内容を発表することはとても困難ですが、会場からはときおり驚きのため息や拍手が流れ、発表後は盛大な拍手に包まれました。各国のカントリーレポートの中でも、一番の発表だったのではないかと、その後の各国代表との語らいの中でも度々讃えられる程でした。(山内)

【クロージングディナー】別れを惜しんで

最後の夜は、各国が歌や踊りのパフォーマンスを行ったり、別れを惜しんで交流をしたり、2年後の再開を誓って写真を撮ったりするなど、たいへん打ち解けて賑やかなディナーです。日本は「心の絆ハンカチ大作戦」にすでに賛同頂いた方への感謝と、まだお書き頂けていない方へのお願いを兼ね、



日本の応援者の黄色いハンカチ、東北被災地からのメッセージのピンクのハンカチ、今回の FAWA の開催中に記入して頂いた緑のハンカチを並べて披露致しました。世界的に有名な「上を向いて歩こう」の曲に合わせ、並べると「一冊の会」「JAPAN」と書いてある提灯、日本に残ったメンバーから預かった富士山の写真をあしらったうちわといった小物を持ち、リズムに乗って登場して楽しくメッセージをお伝えしました。

最後に新たな役員を発表があり、大槻会長は FAWA 副会長に再選されました。FAWA のフラッグは次回開催国のフィリピンへ引き継がれ、力強い革新あふれたスピーチで 2018 年度の再開を約束して終幕となりました。(赤田)



各国が2年ごとに自国の課題に挑戦し、素晴らしい結果を持って集まって来る姿は、まるで故郷に帰って来る凱旋者のように思えました。私の参加した第2分科会のテーマは「次世代への持続可能な母なる地球」。環境といっても、1人の啓発から始まり、一人一人の自覚が基本になります。正に、一人の女性の意識改革が、どれほどのエンパワーメントを高め、その結果、子供の教育への考え方、家庭への構築へと繋がっていくことでしょう。高邁な理論を振り回すのではなく自分の言葉で世流を築く人間共和をめざす社会は、正に一冊の会の諸先輩が築きあげられた 52 年の歴史。FAWA が目指すものと確信致しました。(新井)



文責：赤田・村岡・瀧川・椎名・山内・新井

編集：赤田

監修：大槻・小山